

御蔵島

豊かな水と深い緑からなる
魅惑的な島



御蔵島はどこにあるの？

位置：都心から南に199km
面積：20.51km²

アクセス

航路：竹芝－御蔵島（東海汽船）大型客船で約7時間25分
空路：八丈島空港－御蔵島ヘリポート（東邦航空）ヘリコプターで約25分

MIKURAJIMA

OGASAWARA Islands

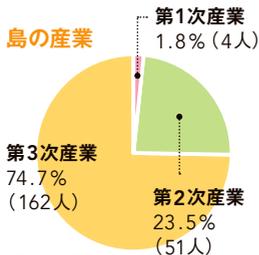


information

島の人々

人口：335人
世帯数：194世帯

島の産業



公共施設

役場：1
医療機関：1
小学校：1
中学校：1

御蔵島村の特産物

水産生鮮品：イセエビ、タカバ
農林産生鮮品：アシタバ
工芸品：ツゲ・桑細工
鉱産品・その他：御蔵の源水

御蔵島村のシンボル

花：ニオイエビネラン
木：ツゲ
鳥：オオミズナギドリ
動物：ミナミハンドウイルカ

御蔵島の固有種・
ニオイエビネラン。



© 御蔵島観光協会





黒潮の激流に囲まれた島

御蔵島は三宅島から南に18km、大型客船で50分の距離にあります。島の大きさは、かつて大島(周囲約52km)に匹敵する程でしたが、周囲が黒潮の激流に削られ、現在の大きさ(周囲約16km)になりました。削られた部分は海食崖となって島を囲み、南西部の黒崎高尾では高さが480mにもなりません。

多様な生物の宝庫

「神様の宝をしまっ蔵を置くために伊豆諸島でも番目に削られた島」といわれる御蔵島は、世界でも珍しい植物相を有しています。特徴は植物の垂直分布にみられ、海拔300mまでは亜熱帯または暖帯性の植物が生育していますが、海拔450m以上には温帯北部から亜寒帯の植物が生育しています。

珍しい植物相が生まれた秘密は御蔵島の海食崖にあります。

低地は黒潮の影響により暖かく、高地は海を渡る空気が崖で急上昇・膨張し山頂付近で温度が急激に下がることで、気温差が生じ2つの植物相が生まれます。

また、御蔵島の大きな特徴であるイルカ生息にも、豊かな森が関係しているといわれています。島に生息しているオオミズナギドリ等野鳥の糞と森の落ち葉が養分となり水とともに海に流れ落ちると、プランクトンの餌となります。その結果、プランクトンを求めて魚が集まるので、餌を求めるイルカも多数生息していると考えられています。こうした多様な生態系を保護するために、御蔵島ではエコツーリズムを推進しています。島の資源の観光利用を制限することによって、持続可能な観光を目指しています。



©御蔵島観光協会
ドルフィンスイムに魅せられる人は多い。

イルカと共存する島

御蔵島では、野生のイルカに会えるイルカウォッチング・ドルフィンスイムが人気です。毎年3月から11月のシーズンには、多くの人々がイルカに会うため島を訪れます。御蔵島のイルカウォッチングは1990年代初頭から始まりました。きっかけは、ダイバー達の間でイルカと泳げる話が広まったことといわれています。イルカウォッチングの人気は一気に高まり、あちこちから船が押し寄せるイルカブームを巻き起こしました。このとき、加熱するイルカブームに危機感を持った島民有志によって御蔵島イルカ協会が結成され、生態系保護に向けた取組が始まりました。同協会は関係機関などの協力を得ながら、1994（平成6）年からイルカ個体識別調査を開始しました。また、同協会によってイルカウォッチングやドルフィンスイムのルールの基礎が作られました。現在、その役割は御蔵島観光協会に引き継がれ、人間とイルカの共生が図られています。

運が良ければイルカの大群に会えるかも。



© 御蔵島観光協会

イルカ個体識別調査の様子。



© 御蔵島観光協会



© 御蔵島観光協会

遠くから見える白滝は、昔から航海や漁の目印として利用されてきた。

イルカの紹介本

御蔵島観光協会は、イルカ紹介本『いるかないか』を発行しています。御蔵島周辺に生息するイルカ約140頭のうち、イルカの身体についた傷やヒレの欠けを手がかりに、識別がしやすい54頭のイルカが紹介されています。また、イルカ紹介だけではなく、これまでの研究でわかった最新の知見や島ごとなども紹介されています。



ドルフィンスイムのルール

いつまでもイルカと人間の良好な関係を保っていくため、御蔵島では独自のルールを定めています。ルールはイルカの自然な行動を妨げない、イルカを刺激しないこと等を基本に設定されています。また、ルールにはイルカの保護だけではなく、人間を守る意味も含まれています。例えば、イルカに触ることを禁じているのは、イルカとの接触によって人間に危害が加わることを避けるためでもあります。

さらに、ウォッチング船のスクリーンに巻き込まれる等の事故を防ぐためにも、ツアー中はスタッフの指示に従う必要があります。

ドルフィンスイムのルールは御蔵島観光協会のホームページ等に掲載されており、参加者への意識啓発が図られています。



海に浮かぶ森

御蔵島の原生林は、全国有数の巨樹・巨木の群生地。



長滝山山頂付近からはつぶねが森、御代ヶ池がよく見えます。

御蔵島は、火山島でありながら数千年にわたり噴火が起きていません。このため、全島がタブノキやホルトノキ等を中心とする常緑広葉樹で覆われています。特に、スタジイは御蔵島の森を構成する代表的な常緑広葉樹であり、南郷地区には幹周約14mの南郷のオオジイと呼ばれる巨樹があります。森の中では、オオミズナギドリの巣穴をみることもできます。また、深い森はミクラミヤマクワガタやミクラクロヒカゲなど希少な昆虫の住みかにもなっています。その他、シヨウジョウバカマなど高山植物が観察できることも御蔵島の森の大きな特徴のひとつです。島の花になっているニオイエビネランは、乱獲によって野生種の絶滅が危惧されています。現在はいえびね公園で保護されており、自然の森の中でニオイエビネランが咲く様子が再現されています。これら希少生物の宝庫である御蔵の森を守るため、動植物の持ち出し、持ち込みは禁止されています。



◎御蔵島観光協会

ミクラミヤマクワガタ



◎御蔵島観光協会

ミクラクロヒカゲ



◎御蔵島観光協会

シヨウジョウバカマ

島の作法 くさまつ 草祀り神様

御蔵島には草祀り神様といわれる小さな祠が2カ所あります。入山する人は、辺りにある草を摘み、上から石を置いて神様にこれから山へ入ることを伝え、下山時には草を取り無事に下山できた感謝を伝えます。かつては「草が残っている＝誰か山に残っている」となり、探しに行く目安となっていました。



トレッキングコースは半日・1日コース合わせて10余り設けられており、自然保護のため、ほとんどのコースで東京都認定ガイド資格を持ったガイドの同行が必須です。ガイド1名あたりの案内可能人数は7名まで、予約はガイド個人への直接予約のほか、観光案内所でも受け付けています。

御蔵島エコツアーリズム





島の守り神・稲根神社の例大祭

集落の最も高い位置にある稲根神社には、島の神様が祀られています。集落にあるのは拝殿で、本殿は島南側の稲ヶ森にあります。

8月の第1土・日曜日の例大祭は島一番の祭りです。期間中は村総出でお祭りの準備をするため、宿やイルカウォッチングなどを休業することが多いです。日曜日の神輿巡行では、拝殿を出発した神輿が1日かけて里の中を廻ります。担ぐ神輿が荒々しければ荒々しいほど、豊漁・豊作と言い伝えられています。

御蔵の源水

御蔵島は、雨水を繋ぎ止める役割の中央部の深い森によって、島全体が水がめのようになっています。このため、御蔵島は伊豆諸島の中で最も水が豊富な島といわれています。蓄えられた水は地中を奥深く流れ、海食崖の中腹から流れ出ていきます。島を海から見ると、滝が流れ出ている様子が何カ所も観察できます。山の湧水は「御蔵の源水」として販売されており、豊かな森が育んだ水は通常の2倍のミネラルを含み、まろやかで優しい味がします。



御蔵島観光資料館



御蔵島観光資料館の1階には郷土資料館、2階には観光資料展示コーナーや観光案内所（御蔵島観光協会）があります。郷土資料館では、島の歴史や暮らしなど、御蔵島の変遷を知ることができます。また、御蔵島と三宅島の江戸時代の関係にまつわる話や、バイキング号事件が島の住民に与えた影響など歴史の逸話も紹介されています。観光資料展示コーナーでは、希少性の高い御蔵島の海と山の自然環境について詳しく知ることができます。



バイキング号記念碑



1863（文久3）年、御蔵島の大根ヶ浜付近に米国商船バイキング号が座礁する事件が起こりました。当時の日本は鎖国状態でしたが、勇気ある島民は漂流者を懸命に救助し、その結果500名近くの命を救うことができました。その後、事件のことは島の伝承から消えかけていましたが、1960（昭和35）年に植物学者・高橋基生博士が興味を持ったことから再び注目が集まりました。そして事件後100年を記念し、漂流者の子孫達が御蔵島とアメリカの双方に、感謝と友好の気持ちを込めて建立したのがバイキング号記念碑です。



© 御蔵島観光協会

御蔵島は世界有数のオオミズナギドリ繁殖地。近年は野生化したネコにより激減している。



海食崖の高さは480m。展望台まではガイドなしでも行ける。

島内アクセス

レンタカーなし

※島内は自転車禁止されています。

島の窓口



御蔵島観光協会

〒100-1301
東京都御蔵島村おうし屋敷



御蔵島村産業課

〒100-1301
東京都御蔵島村字入かねが沢



数千年前の噴火の際に、川が堰き止められて生まれたとされる堰止め湖。新東京百景に選ばれている。



© 御蔵島観光協会

島めぐりコース

【1日目】

午前 御蔵島港に到着 → 民宿の車で宿へ。休憩 → 島内を散策。観光資料館で島の歴史や自然を知る → 昼食はアシタバを使ったランチ

午後 ガイドと合流しドルフィンスイムを満喫 → 夕食は民宿にて島料理を堪能 → 夕食後、星空観察

【2日目】

午前 エコツアーリズムに参加。ガイドの説明を受けながら御蔵島の自然を感じる

午後 昼食を購入し、船に乗り込む → 御蔵島港から出港